

FF-Data（訪日外国人流動データ） の概要と利用例

目次

FF-Data(訪日外国人流動データ)の概要	P2
分析例① 都道府県間年間流動量ランキング	P3
使用データ: 都道府県間流動表もしくは公表用データベース(出発地、目的地)	
分析例② 国籍別 都道府県年間入込客数ランキング	P4
使用データ: 都道府県間流動表もしくは公表用データベース(国籍、目的地)	
分析例③ 運輸局ブロック別 交通機関分担率	P5
使用データ: 公表用データベース(出発地、目的地、交通機関)	
分析例④ 都道府県別 旅行目的別シェア	P6
使用データ: 公表用データベース(目的地、旅行目的)	
分析例⑤ 特定地域の訪問者数と地域間流動量(九州の例)	P7
使用データ: 公表用データベース(出発地、目的地)	
分析例⑥ 特定の県への近隣県からの流動分析(富山県の例①)	P8
使用データ: 公表用データベース(出発地、目的地、交通機関)	
分析例⑦ 特定の県への近隣県からの流動分析(富山県の例②)	P9
使用データ: 公表用データベース(出発地、目的地、国籍)	
分析例⑧ 運輸局ブロック別 四半期別 国籍別入込客シェア	P10
使用データ: 公表用データベース(目的地、国籍)	
分析例⑨ 首都圏-中国(広島・岡山)間旅行者の経由地を含む流動分析	P11
使用データ: 貸出用データベース(出発地、目的地、サンプルID、トリップNo、交通機関、拡大係数)	
分析例⑩ 周遊ルート及び宿泊地の分析	P12
使用データ: 貸出用データベース(出発地、目的地、サンプルID、トリップNo、宿泊数、拡大係数)	

FF-Data(訪日外国人流動データ)の概要

- 当該データの作成方法
 - 国内流動に関する、観光庁「訪日外国人消費動向調査」、航空局「国際航空旅客動態調査」、国籍別出国者数に関する、法務省「出入国管理統計月報」の平成26年(2014年)のデータを組み合わせて作成した。
- 公表物
 - 都道府県間流動表(国籍別・交通機関別)
 - データベース(国籍・交通機関・目的・出国空港・発着都道府県別流動量)
 - ※ 周遊ルート、宿泊数等が分析可能なデータベースは利用希望者にデータを貸与
- 分析できる内容
 - 都道府県間流動量、都道府県別入込者数
 - 交通機関分担率
 - 訪日外国人属性(国籍、目的、出国空港)
 - 周遊ルート、泊数
- 利用上の注意
 - 訪日外国人消費動向調査、国際航空旅客動態調査はいずれも、国内訪問地の情報はアンケート回答者の主観に委ねられているため、特に都市内あるいは都道府県内等の短距離の流動が十分に把握できていない可能性がある点にご注意願います。
 - また、例えば1回の旅行で、ある都道府県を2回訪問した場合は、都道府県間流動表ではその都道府県を2回訪問したこととして集計しています。そのため、都道府県別の入込客数を都道府県間流動表から集計する際には、同じ人を複数回カウントしている点にご注意願います。

分析例① 都道府県間年間流動量ランキング

使用データ: 都道府県間流動表もしくは公表用データベース

- 都道府県間の年間流動量を把握することが可能である。
- 都道府県間の年間流動量は、千葉県-東京都間、京都府-大阪府間等で多く、流動が首都圏・近畿圏に集中しているということ等がわかる。

表 都道府県間の年間流動量ランキング

順位	都道府県間		年間流動量 (万人/年)	順位	都道府県間		年間流動量 (万人/年)	順位	都道府県間		年間流動量 (万人/年)
1	千葉県	東京都	722.1	21	熊本県	大分県	23.6	41	茨城県	東京都	11.2
2	京都府	大阪府	283.2	22	千葉県	山梨県	22.7	42	神奈川県	愛知県	11.0
3	東京都	神奈川県	147.2	23	千葉県	大阪府	21.7	43	長崎県	熊本県	10.4
4	大阪府	兵庫県	87.7	24	千葉県	静岡県	21.1	44	長野県	愛知県	10.3
5	千葉県	神奈川県	78.3	25	岐阜県	愛知県	21.1	45	神奈川県	山梨県	9.8
6	東京都	京都府	66.0	26	北海道	千葉県	19.9	46	静岡県	京都府	9.6
7	東京都	大阪府	65.9	27	千葉県	京都府	18.9	47	神奈川県	大阪府	9.6
8	福岡県	大分県	61.3	28	大阪府	和歌山県	17.3	48	富山県	愛知県	9.5
9	東京都	静岡県	54.4	29	神奈川県	京都府	16.8	49	石川県	岐阜県	9.5
10	大阪府	奈良県	53.5	30	埼玉県	千葉県	16.7	50	千葉県	愛知県	9.4
11	東京都	山梨県	41.0	31	栃木県	東京都	16.4	51	北海道	大阪府	8.5
12	福岡県	熊本県	40.2	32	埼玉県	東京都	16.1	52	東京都	広島県	8.4
13	京都府	奈良県	39.6	33	千葉県	長野県	14.8	53	大阪府	岡山県	7.3
14	京都府	兵庫県	33.7	34	神奈川県	静岡県	14.3	54	滋賀県	大阪府	7.2
15	愛知県	大阪府	32.6	35	兵庫県	奈良県	13.8	55	大阪府	福岡県	7.1
16	東京都	愛知県	29.9	36	大阪府	広島県	13.6	56	富山県	岐阜県	7.1
17	愛知県	京都府	27.3	37	栃木県	千葉県	13.4	57	山梨県	愛知県	6.9
18	北海道	東京都	26.1	38	茨城県	千葉県	12.5	58	静岡県	大阪府	6.8
19	福岡県	長崎県	25.7	39	京都府	広島県	12.1	59	富山県	石川県	6.6
20	東京都	長野県	24.0	40	静岡県	愛知県	12.0	60	長崎県	大分県	6.6

(注1) 上位60位までを掲載。

(注2) 同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。

(出典) FF-Data(2014年)より作成

首都圏	九州
近畿圏	北海道
中京圏	沖縄

分析例② 国籍別 都道府県年間入込客数ランキング

使用データ: 都道府県間流動表もしくは公表用データベース

- 国籍別に各都道府県の訪問者数を把握することが可能である。
- 韓国の方は沖縄や九州地方に多数訪問しており、欧米の方は他の国籍の方と比べて広島県を多く訪問している。

表 国籍別 都道府県年間入込客数ランキング

国名	訪問地 (万人/年)									
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
中国	東京都 311.8	大阪府 109.3	京都府 77.3	北海道 53.7	神奈川県 52.0	愛知県 48.0	千葉県 44.9	静岡県 27.5	沖縄県 27.0	山梨県 23.9
韓国	東京都 198.6	大阪府 100.9	福岡県 69.1	沖縄県 50.2	京都府 44.4	北海道 41.3	大分県 37.8	熊本県 19.4	兵庫県 19.1	神奈川県 18.4
台湾	東京都 237.2	北海道 121.0	沖縄県 94.2	大阪府 77.9	京都府 68.3	千葉県 40.0	福岡県 28.0	兵庫県 24.4	神奈川県 22.9	愛知県 19.1
タイ	東京都 91.2	北海道 19.9	大阪府 17.5	京都府 11.3	神奈川県 10.0	千葉県 9.5	山梨県 7.4	愛知県 6.8	静岡県 5.6	福岡県 4.5
フィリピン	東京都 27.5	大阪府 6.9	神奈川県 4.6	千葉県 4.6	京都府 4.4	愛知県 2.9	静岡県 2.6	兵庫県 1.3	福岡県 1.2	埼玉県 1.0
英国	東京都 34.5	京都府 5.4	大阪府 4.1	神奈川県 3.8	広島県 2.7	北海道 1.8	千葉県 1.7	長野県 1.5	愛知県 1.3	兵庫県 1.2
米国	東京都 114.4	京都府 18.6	神奈川県 18.4	大阪府 13.5	千葉県 10.0	愛知県 5.8	北海道 5.3	広島県 5.2	沖縄県 4.5	静岡県 4.3
オーストラリア	東京都 40.3	京都府 11.6	大阪府 8.6	長野県 5.3	北海道 4.3	千葉県 4.0	広島県 3.7	神奈川県 3.5	岐阜県 1.4	愛知県 1.3

首都圏	近畿圏	中京圏	九州	北海道	沖縄
-----	-----	-----	----	-----	----

(注) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。複数回同一都道府県を訪問している人は重複カウントしている。

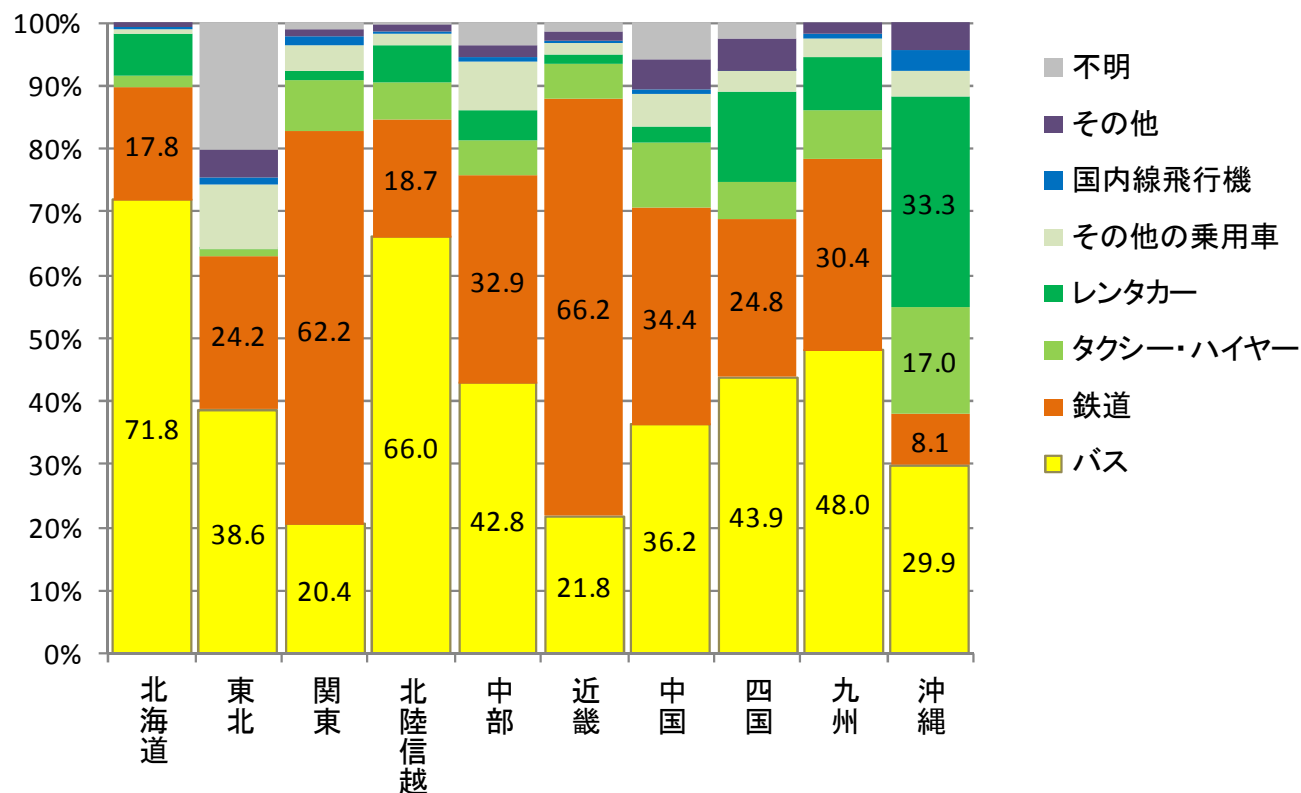
(出典) FF-Data(2014年)より作成

分析例③ 運輸局ブロック別 交通機関分担率

使用データ: 公表用データベース

- 地域別の交通機関分担率を分析することができる。
- 本州・北海道・九州内の移動は、鉄道・バスの利用が多く、沖縄県内の移動は自動車が多い。

表 運輸局ブロック別 ブロック内移動の交通機関分担率



(注1) 地域ブロック: 運輸局単位で集計

(注2) 出入国港からのアクセス・イグレス及び発着地不明を除き、国内訪問地間の流動を対象。

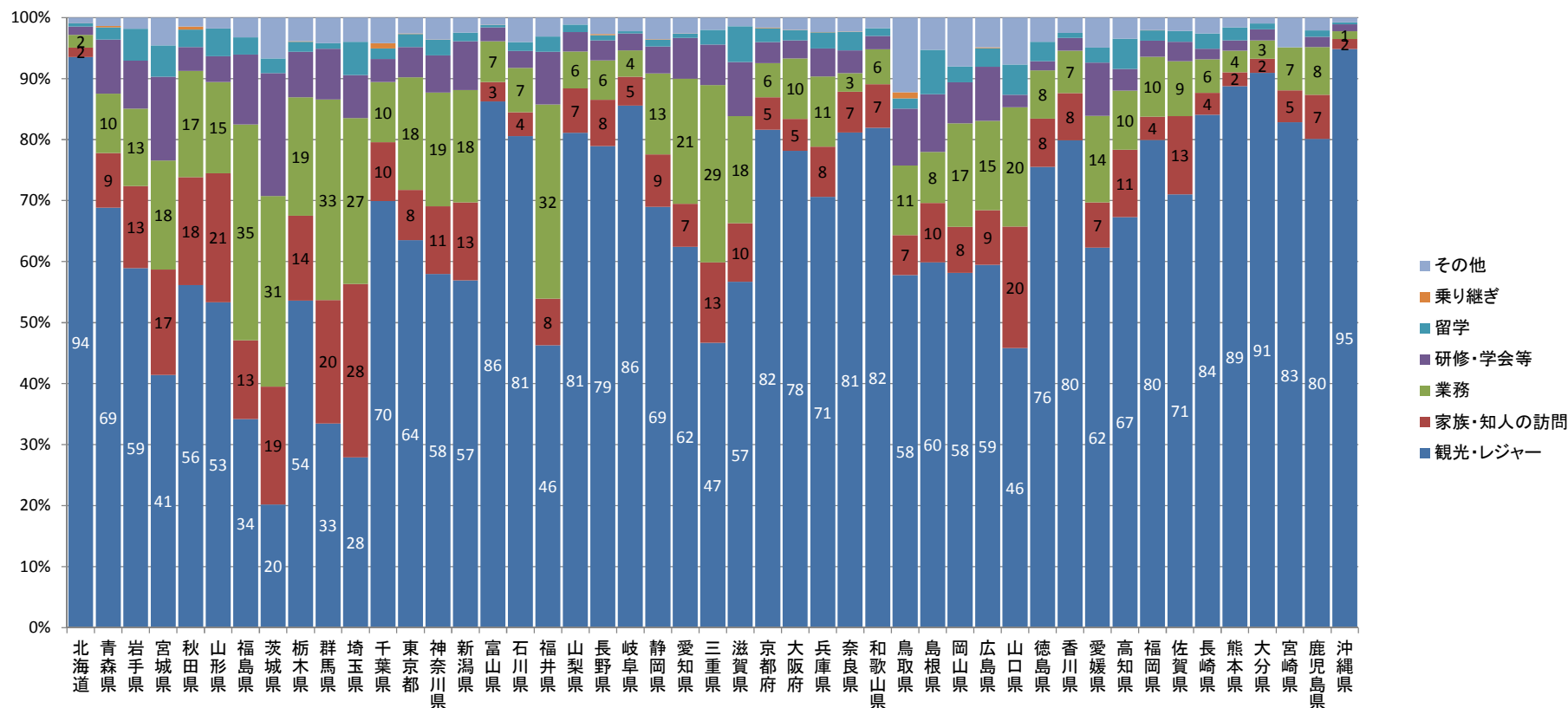
(出典) FF-Data (2014年) より作成

分析例④ 都道府県別 旅行目的別シェア

使用データ: 公表用データベース

- 旅行者の旅行目的を把握することができる。
- 北海道・北陸・京都・九州・沖縄は「観光・レジャー」の割合が8割以上と高い。
- 一方、首都圏・中京圏は他の地域と比較して業務目的が2～3割と高い。

表 都道府県別 旅行目的別シェア



(注1) 旅行目的不明のサンプルを除く。

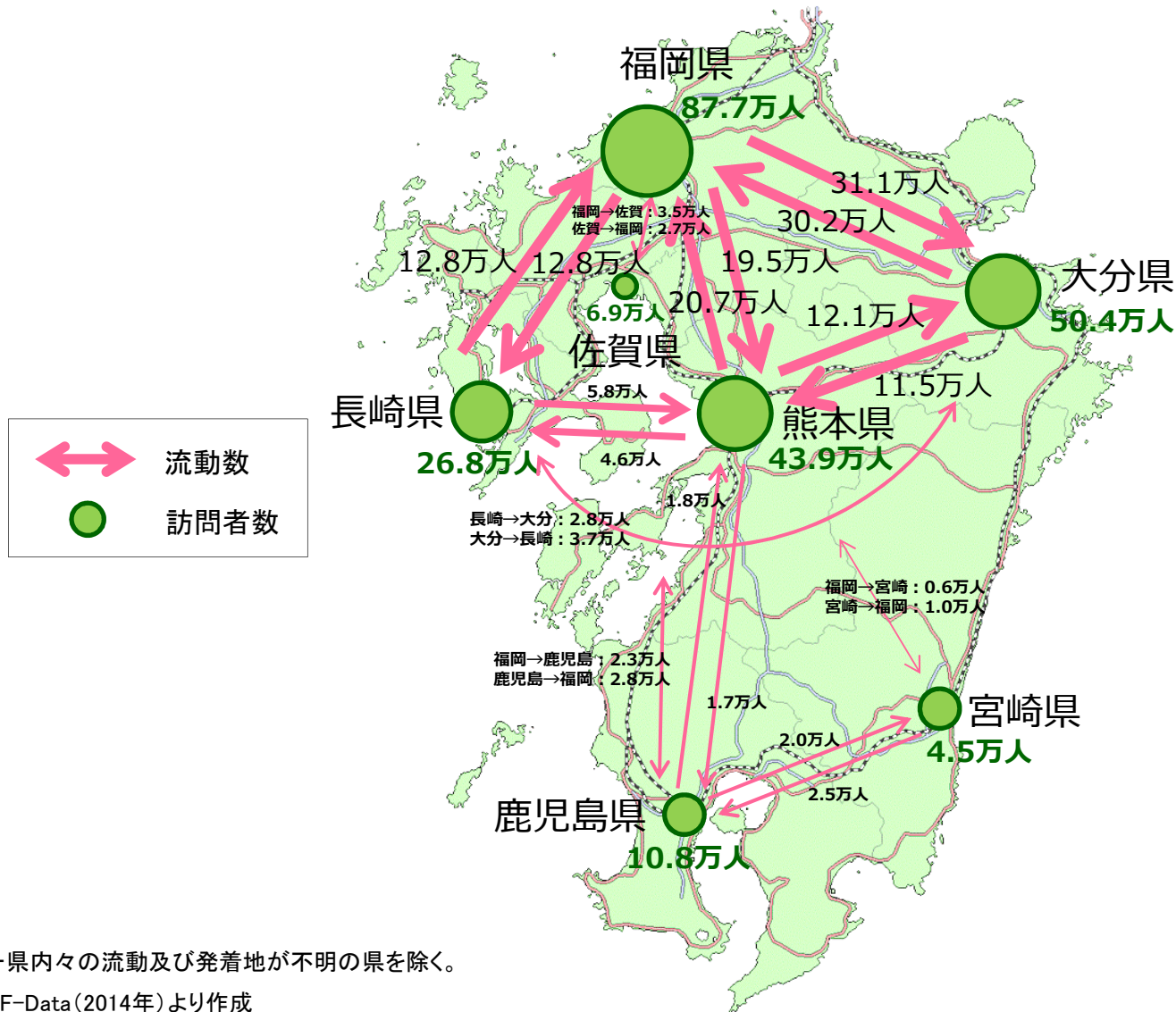
(注2) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。複数回同一都道府県を訪問している人は重複カウントしている。

(出典) FF-Data (2014年) より作成

分析例⑤ 特定地域の訪問者数と地域間流動量(九州の例) 国土交通省

使用データ: 公表用データベース

- 九州では福岡県を中心に北部の県間での流動が多いことがわかる。



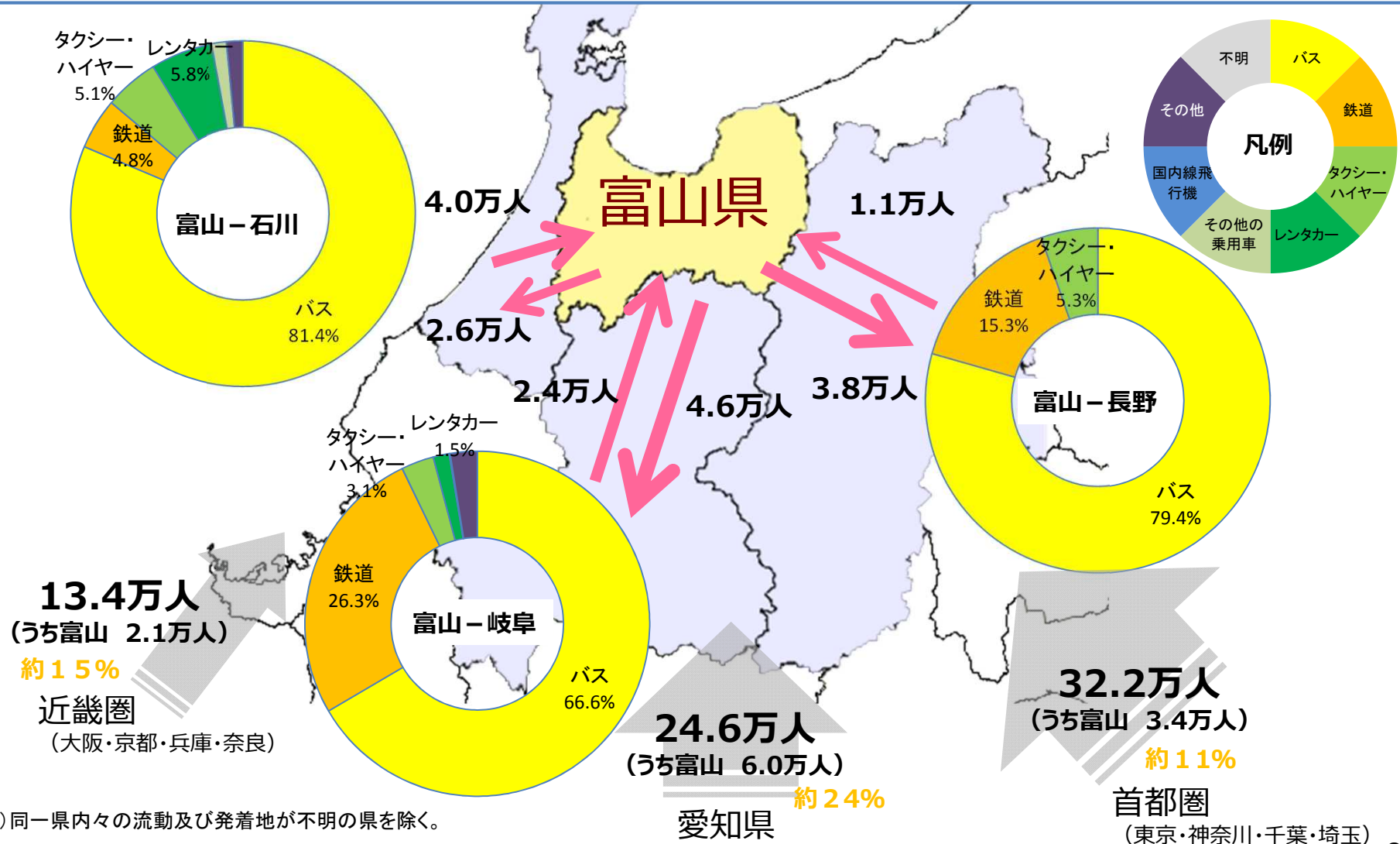
(注) 同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。

(出典) FF-Data(2014年)より作成

分析例⑥ 特定の県への近隣県からの流動分析(富山県の例)

使用データ: 公表用データベース

- 大都市圏からの直接の流入は愛知からが多いが、全体に占める割合は限定的である。
- 隣接県間の流動は一定量あり、交通手段はバスが中心である。(北陸新幹線開業前)



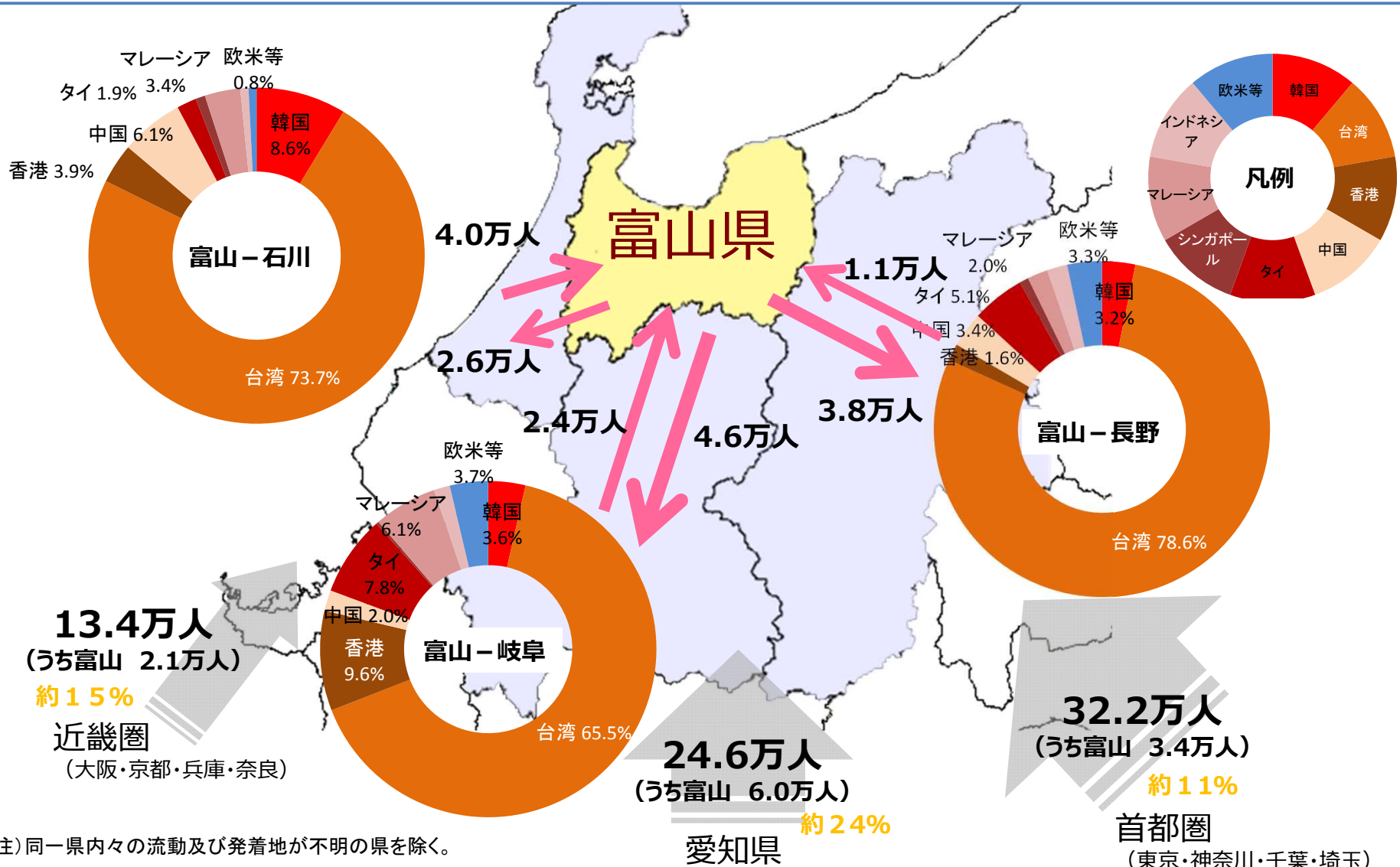
(注) 同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。

(出典) FF-Data(2014年)より作成

分析例⑦ 特定の県への近隣県からの流動分析(富山県の例②) 国土交通省

使用データ: 公表用データベース

- 隣接県からの富山県訪問者は台湾国籍の旅行者が多い。



(注) 同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。

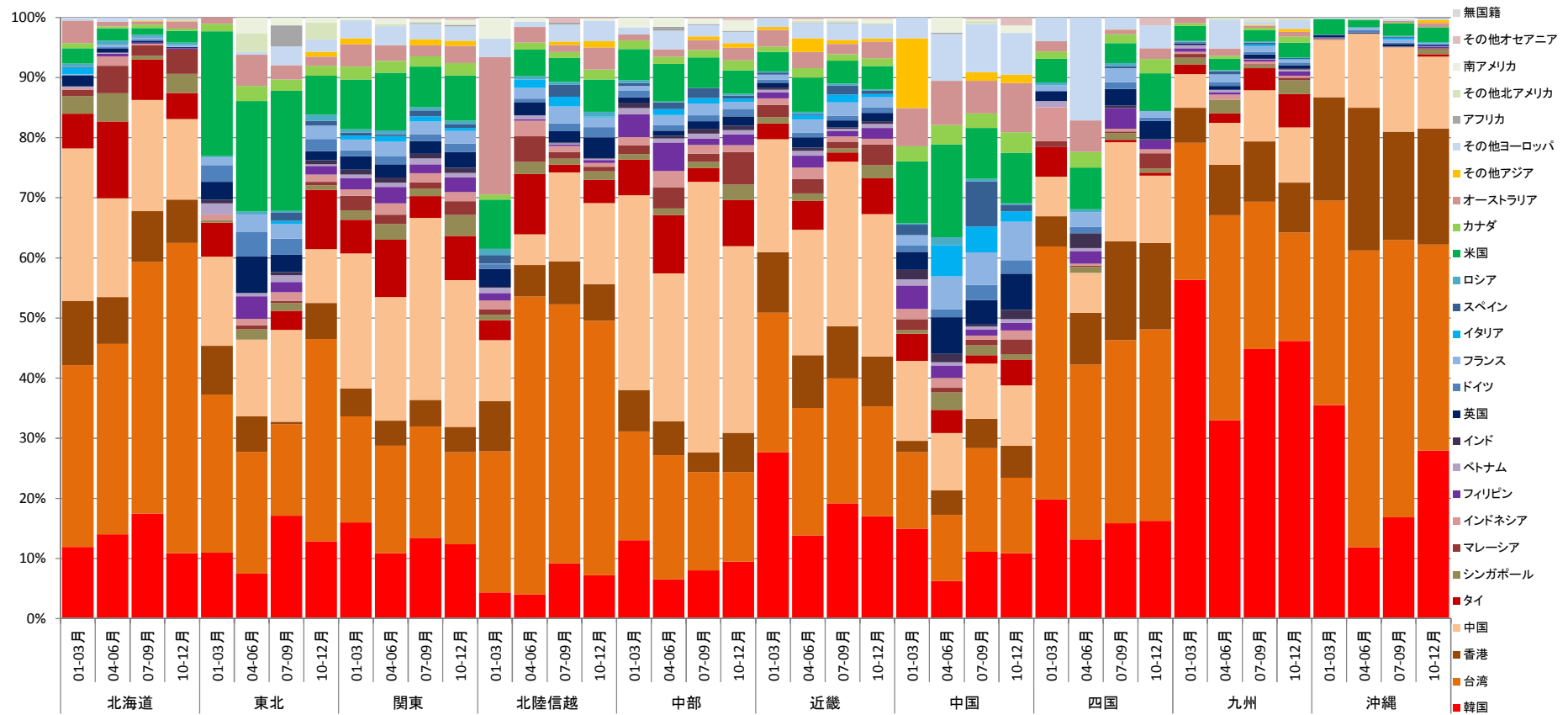
(出典) FF-Data(2014年)より作成

分析例⑧ 運輸局ブロック別 四半期別 国籍別入込客シェア 国土交通省

使用データ: 公表用データベース

- 九州は韓国人のシェアが高い。一方、関東、中部、近畿は中国人のシェアが高い。
- 中国地方は、シェアが特定の国に偏らず、他の地域と比較して欧米諸国のシェアが高い。

表 運輸局別 四半期別 国籍別入込客シェア



(注) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。複数回同一都道府県を訪問している人は重複カウントしている。

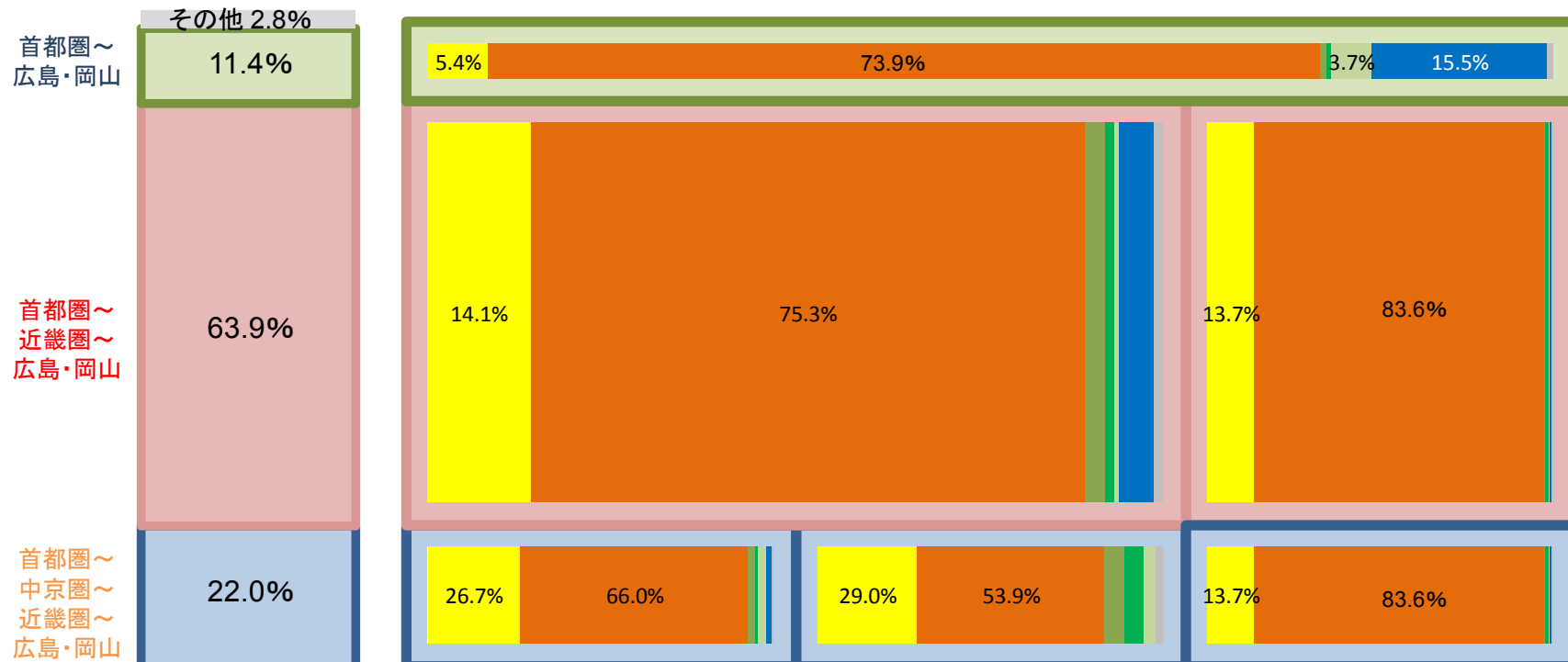
(出典) FF-Data(2014年)より作成

分析例⑨ 首都圏-中国(広島・岡山)間旅行者の経由地を含む流動分析

使用データ:貸出用データベース

- 東京～広島・岡山を移動した訪日外国人旅行者数は年間24.1万人となり、そのうち約9割の旅行者は途中で近畿圏(京都・大阪)を訪問している。
- 首都圏からの旅行者の約7割、近畿圏からの旅行者の約8割が鉄道で中国(広島・岡山)を訪れている。

図 首都圏～中国(広島・岡山)間のルート別交通機関別訪日外国人旅行者数(2014年)



24.1(万人/年)

首都圏 — 中京圏 — 近畿圏 — 広島・岡山

新幹線の営業キロ(JTB時刻表) 東京-名古屋(360km) 名古屋-新大阪(180km) 新大阪-広島(340km)



(出典)FF-Data(2014年)より作成

分析例⑩ 周遊ルート及び宿泊地の分析

使用データ:貸出用データベース

- 九州内の流動をみると、福岡県と大分県を訪問する流動が多く、次いで、熊本・長崎に訪問する流動が多い。熊本は大分からの訪問が多く、長崎への訪問後は熊本への訪問が多い。
- 宿泊パターンを見ると訪問県全てで宿泊するパターンが多い。

図 福岡空港を出国する訪日外国人旅行者の国内訪問周遊ルート及び宿泊地(上位15)

順位	周遊ルート	流動量 (万人/年)	宿泊パターン
1	福岡県内	53.5	福岡のみ宿泊(100%)
2	福岡-大分	17.3	福岡・大分に宿泊(67%)、福岡のみ宿泊(31%)、大分のみ宿泊(3%)
3	大分-福岡	10.3	福岡・大分に宿泊(79%)、大分のみ宿泊(13%)、福岡のみ宿泊(8%)
4	福岡-大分-福岡	8.3	福岡・大分に宿泊(60%)、福岡のみ宿泊(36%)、大分のみ宿泊(4%)
5	福岡-大分-熊本	6.5	福岡・大分・熊本に宿泊(37%)、福岡・大分に宿泊(26%)、福岡のみ宿泊(17%)、 福岡・熊本に宿泊(11%)、大分・熊本に宿泊(10%)
6	大分-熊本-福岡	6.0	福岡・大分・熊本に宿泊(64%)、大分・熊本に宿泊(14%)、福岡・大分に宿泊(11%)、 福岡のみ宿泊(7%)、福岡・熊本に宿泊(4%)
7	福岡-熊本-大分	5.7	福岡・大分・熊本に宿泊(70%)、福岡のみ宿泊(14%)、福岡・熊本に宿泊(13%)、 福岡・大分に宿泊(3%)
8	福岡-大分-熊本-福岡	5.1	福岡・大分・熊本に宿泊(47%)、福岡・大分に宿泊(23%)、福岡・熊本に宿泊(18%)、 福岡のみ宿泊(10%)、大分・熊本に宿泊(2%)
9	熊本-大分-福岡	5.0	福岡・大分・熊本に宿泊(92%)、福岡・大分に宿泊(8%)
10	福岡-熊本-大分-福岡	4.7	福岡・大分・熊本に宿泊(61%)、福岡・大分に宿泊(19%)、福岡・熊本に宿泊(14%)、 福岡のみ宿泊(6%)
11	長崎-熊本-大分-福岡	4.6	福岡・大分・熊本・長崎に宿泊(72%)、福岡・熊本・長崎に宿泊(28%)
12	長崎-熊本-福岡	4.2	福岡・熊本・長崎に宿泊(89%)、福岡・熊本に宿泊(5%)、福岡のみ宿泊(4%)、 熊本・長崎に宿泊(2%)
13	福岡-熊本-福岡	4.0	福岡・熊本に宿泊(85%)、福岡のみ宿泊(15%)
14	福岡-熊本	4.0	福岡・熊本に宿泊(58%)、福岡のみ宿泊(31%)、熊本のみ宿泊(11%)
15	福岡-長崎	3.9	福岡・長崎に宿泊(52%)、福岡のみ宿泊(40%)、長崎のみ宿泊(8%)

(注1)福岡空港を出国するデータで周遊ルート別の流動量の上位15ルートを対象とした。

(注2)同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。

(出典)FF-Data(2014年)より作成